

第92回日本結核病学会総会

イブニングセミナー5のご案内



演題

# 抗酸菌検査法の最近の話題

座長

**田代 隆良** 先生

(長崎大学 名誉教授)

演者

**吉田 志緒美** 先生

(NHO近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター)



日時

2017年 **3月23日**(木)

**16時15分 ~ 17時15分**

会場

**第5会場**

(東京国際フォーラム D棟 1階 ホールD1)

※整理券の配布はございません。直接会場へお越し下さい。

●本学会付設展示会 東ソーブースにて弊社製品を展示しております。  
是非お立ち寄りください。



第 92 回 日本結核病学会総会 **企業展示のご案内**

**会 期**

2017年 3月23日(木) 8:00~17:00

3月24日(金) 8:00~15:30

**出展予定品**

自動遺伝子検査装置

TRCReady-80

共催：第92回日本結核病学会総会 / 東ソー株式会社



# 演題 抗酸菌検査法の最近の話題

座長 田代隆良 先生（長崎大学 名誉教授）

演者 吉田志緒美 先生（NHO近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター）

**要旨** 抗酸菌検査は大きく分けて、臨床検体から菌株を分離し、得られた菌株の性状を評価することと、検体から抽出された遺伝子の検出により起炎菌の病原性を推測することが一般的である。昨今では集菌塗抹検査や液体培地の導入などにより検出感度が向上し、また遺伝子検査による検出系の迅速化は目覚ましいが、一連の検査手順は大きく変わってはいない。

抗酸菌症のなかで最も患者数が多い肺感染症患者から提出される喀痰材料の取扱いの段階から検査は決まっているといいほど、いかに良質の検体材料を提供してもらうかがその後の検査結果を大きく左右するため、採痰の指導と検体の品質管理は重要である。提出された臨床検体は検査室にて均等化・前処理がなされ、塗抹検査と培養検査に用いられる。検体が塗抹陽性の場合、結核かNTM症かの早期診断が要求されることから、核酸増幅法検査が実施される。この時点で、同定される菌種のレパートリーは臨床での診断・治療上必要と思われる情報を有している菌種に絞られるべきであるが、そのカギとなるのは菌のヒトに対する病原性の有無である。その時代と罹患地域によって病原性の解釈に違いが生じるが、疾患の罹患率や難治性、菌の感染伝播力などが考慮されてわが国では結核菌、*M. avium*、*M. intracellulare*、*M. kansasii*、*M. abscessus complex*といった菌種が挙げられる。

培養検査で陽性となった場合、抗酸菌の存在を確認するため、抗酸性染色（この時はZiehl-Neelsen染色）を行う必要がある。抗酸菌陽性であれば、簡便な免疫クロマトグラフィー法で結核菌群の判定を行い、結核菌群陽性となれば、薬剤感受性検査を行うために増菌培養する。結核菌群陰性の場合には各種検査法を用いて菌種同定を行い、薬剤感受性検査に進む。現時点では*M. kansasii*、*M. avium-intracellulare complex*以外のNTMは薬剤感受性検査を実施する必要はないが、*M. abscessus complex*については、マクロライドの誘導耐性能の問題からデータを蓄積する必要があると思われる。

NTM症は塗抹・培養及び菌種同定という過程を経て辿りつく菌種が限定されていることに加え、診断されても必ずしも全例で治療を行うわけではない。そのことから、上記以外のNTMに対する検査法は見過ごされがちである。しかし、医療デバイスを介したNTM感染や免疫能が低下した患者への感染事例も散見されるため、医療側では十分な配慮がなされるべきである。また、NTMといっても菌種により臨床像や薬剤効果が異なるため、それぞれについて対応を考える必要がある。

検査結果を臨床診断および治療に有益と思われる情報として還元するという観点から言えば、結核菌の検出及び薬剤感受性の決定は迅速であることが求められる。一方、非結核性抗酸菌症を引き起こす非結核性抗酸菌（NTM）はヒト-ヒト感染の可能性がない反面、経過が緩慢で薬剤効果が芳しくない場合があることから、その評価は常に難しい。NTM症の罹患率が上昇していることもあって、抗酸菌検査のアップデートは常に要求されている。また、近年はヒトを取り巻く環境が大きく変化し、住環境からのNTM感染リスクの評価やコンパニオンアニマル、使役動物などの抗酸菌症が報告されている。今回は、菌が分離されれば即治療対象になるのは結核のみであることを念頭に、急激に増加しつつあるNTMへの対処法や感染リスクに関する諸問題について、文献的考察や当院で経験したいくつかの事例を交えながら概説する。その上で、現状検査法の技術的問題や検査結果の運用から、今後の臨床的利用に関する展開などを紹介する予定であり、主に実地臨床での注意点を中心に、参加者の方へ昨今の話題を提供する機会を設けたい。



東ソー株式会社  
バイオサイエンス事業部

東京本社 ☎(03)5427-5181

名古屋支店 ☎(052)211-5730

仙台支店 ☎(022)266-2341

ホームページ <http://www.diagnostics.jp.tosohbioscience.com/>

大阪支店 ☎(06)6209-1948

福岡支店 ☎(092)781-0481

山口営業所 ☎(0834)63-9888